

事例8 造形活動と鑑賞活動を往還することで、自分の見方や感じ方を深めることをねらった事例

○学年 第6学年

○主な領域 鑑賞の活動

○事例のポイント

- ①美術作品について対話による鑑賞を行うことで、様々な見方や感じ方があることに気付くことができる。
- ②鑑賞活動→造形活動→鑑賞活動と往還することにより、味わったことを試したり、表現に生かしたりすることができる。
- ③児童作品について対話による鑑賞を行うことで、様々な発想や構想、アイデア、表し方などに気付き、互いの見方の違いから、作品に対する自分なりの意味や価値をつくり出すことができる。

ICTを活用した主な学習場面

・児童の考えを共有する場面

ICT活用の利点

- ①ICT端末を用いて作品を鑑賞することで、児童が自分の手元で作品を自由に拡大して見ることができ、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを詳しく捉えることができる。
- ②児童の考えをリアルタイム学習支援アプリや電子黒板で全体に共有することで、互いの見方や感じ方の違いに気付き、個々の見方や感じ方を深めることができる。

1 題材名 「筆あとで広がる、わたしの空」

【第6学年】A表現(1)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

2 題材について

- (1) 児童の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア_____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・美術作品や自分たちの作品を見るときに感覚や作品について、友人と話し合う行為を通して、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解する。 〈知識及び技能〉
- ・形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。
- ・ある日の空を見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。
- ・美術作品や自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・主体的に美術作品や自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知美術作品や自分たちの作品を見るときに感覚や作品について、友人と話し合う行為を通して、 <u>形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。</u>	発形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、 <u>ある日の空を見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。</u> 鑑形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、 <u>美術作品や自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</u>	態つくりだす喜びを味わい主体的に <u>美術作品や自分たちの作品を鑑賞する</u> 学習活動に取り組もうとしている。

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画(全5時間扱い)

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑		
1	<ul style="list-style-type: none"> 空に着目して、複数の作品を見て、気付いたことを話し合う。 児童の発言をもとに、<u>他の児童にも意見を求め、対話による鑑賞</u>ができるようにする。 <p>事例のポイント①</p>	◎				○	1時間目「知識・技能(知識)」は、3つの作品について、筆の感じや色の重なりなどの表現の特徴をそれぞれ理解しているかという視点で評価する。
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> 筆の感じを試しながら空を絵に表す。 <u>表現方法を意識しながら絵に表したり鑑賞したりすることによって、作者の思いや考えに興味をもったり、自分のイメージを広げたりすることができるようにする。</u> <p>事例のポイント②</p>		○			◎	2・3・4時間目「思考・判断・表現(発想や構想)」は、自分で空を絵に表す中で、表現の違いを感じ取ったり自分なりのイメージをもったりしているかという視点で評価する。
5	<ul style="list-style-type: none"> 作品を紹介し合い、よさや面白さを感じ取りながら自分の見方や感じ方を広げる。 学級内で「筆あと美術館」を開き、<u>学芸員を演じながらの友人の作品を紹介する。</u> <p>事例のポイント③</p>					◎	5時間目「思考・判断・表現(鑑賞)」は、友人の作品について、筆の感じの表現の意図や特徴、表し方の変化などを、感じ取ったり考えたりし、伝え合っているかという視点で評価する。

5 本時の学習（本時 1 / 5時）

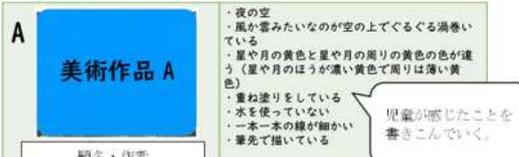
(1) 目標 美術作品や自分たちの作品を見るときにの感覚や作品について、友人と話し合う行為を通して、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解する。 〈知識及び技能〉

(2) 準備

○教師：P C、電子黒板、デジタル教科書、ワークシート、美術作品のカード

○児童：I C T端末

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿（「」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 【観点】：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない児童への手立て
導入 10分	<p>1 教師の提案を聞き、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>「いくつもの色を線で重ねているね。」</p> <p>「グラデーションになっているみたい。」</p> <p>「にじみやぼかしがつかわれているよ。」</p>	<p>○美術作品の一部を拡大したものを3つ提示し、表し方の特徴を挙げ、「どこの一部」なのか予想しながら、関心をもてるようにする。</p> <p>○全て「作品の空の一部」であることを伝え、本時の活動のキーワードが空であることを気付けるようにする。</p>	
<p>提案 美術作品の筆づかいに注目して、表現の特徴や違い、作者の意図を感じ取ろう。</p>			
展開 25分	<p>2 3つの美術作品の全体を見て、題名や作者について知る。</p> <p>「さっきの部分はこんな風に表していたのか。」</p> <p>「もっと近くで見たいな。」</p> <p>3 3つの美術作品に表現されている空を見比べて、気付いたことや感じたことをリアルタイム学習支援アプリ（MetaMoji）のワークシートに書き込む。</p>	<p>○美術作品の全体を電子黒板に大きく提示することで、表現方法の違いをより強く印象付ける。</p> <p>○児童の率直なつぶやきをつなぎ、造形的な特徴について考えられるようにする。</p> <p>○表現されている形や色、筆の感じなどの鑑賞の視点を確認し、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどが捉えられるようにする。</p> <p>○I C T端末を使用することで、児童が自分の手元で美術作品を自由に拡大して見ることができ、気付いたことをワークシートに記入することができる。</p> <p>○児童の実態に合わせて選択できるように、紙のワークシートとB5サイズに印刷した美術作品のカードも準備しておく。</p>	 <p>【知・技】美術作品や自分たちの作品を見るときにの感覚や作品について、友人と話し合う行為を通して、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を理解している。</p> <p>（行動観察・対話・記述）</p> <p>◎筆の感じや色の重なりなどから、形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴をより詳しく捉え、言葉にまとめることができ</p>
<p>I C T活用の利点①</p>		<p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(1)</p> 	

<p>4 美術作品を見て気付いたことや感じたことをグループで話し合う。</p> <p>「渦をたくさんの線で表現して、風の流れを表している。」</p> <p>「重ねた色やアクセントの色で月や星の明かりが表現されている。」</p> <p>「夕日なのに太陽が描かれていないけれど、筆あとから風景が想像できる。」</p> <p>「にじんだ空の色から、朝の肌寒さや静けさを感じられる。」</p> <p>「はっきりとした筆の感じやぼかされているものがある。」</p> <p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)</p> <p>5 グループで話し合ったことについて発表する。</p> <p>ICT活用の利点②</p>	<p>○友人の見方を受容したり、自分の見方との違いを比べたりすることで、自分の見方や感じ方をより深められるよう声かけを行う。</p> <p>○児童の発言に対して、連続した問い返しをすることで、児童がイメージをもった根拠を明確にしたり、イメージを深めたりすることができる。</p> <p>【発問の例】</p> <p>「どのように表現されているのだろうか。」</p> <p>「どんな色が隠れているかな。」</p> <p>「筆は、どんな動きをしたのかな。」</p> <p>「どうしてそう感じたかな。」</p> <p>「どこからそう見えるかな。」</p> <p>事例のポイント①</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>様子</th> <th>質感</th> <th>色合い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筆あと</td> <td>ぬり方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>美術作品A</td> <td>・細筆の先で描いている ・月や星の明かり(重ね方、周りの色づかい) ・左下から右上へ流れているよう、空、風、渦</td> <td>・アクセント</td> </tr> <tr> <td>美術作品B</td> <td>・夕日なのに太陽を描かずに表現している →見る人が想像できる 色の重ね方 ・畑と夕日 ・水平線</td> <td></td> </tr> <tr> <td>美術作品C</td> <td>・静かな風景 ・水を多く含んで境目をぼんやり表現 ・朝の肌寒さ</td> <td>・奥行きが感じられる</td> </tr> </tbody> </table> <p>美術作品の全体を見て児童が感じたこと</p> <p>○作品を見て感じたことを、補助線や印を用いてワークシートにかき込んだ児童は、電子黒板に映して発表することで、説明している部分やイメージがより詳しく伝わる。紙のワークシートの場合は、書画カメラを使用する。</p>	様子	質感	色合い	筆あと	ぬり方		美術作品A	・細筆の先で描いている ・月や星の明かり(重ね方、周りの色づかい) ・左下から右上へ流れているよう、空、風、渦	・アクセント	美術作品B	・夕日なのに太陽を描かずに表現している →見る人が想像できる 色の重ね方 ・畑と夕日 ・水平線		美術作品C	・静かな風景 ・水を多く含んで境目をぼんやり表現 ・朝の肌寒さ	・奥行きが感じられる	<p>る。</p> <p>◆筆の感じを指でなぞり、その動きがどのような表現につながっているかを実感できるように促す。</p> <p>【思・判・表鑑】形や色、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、美術作品や自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取りたり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p> <p>【態】つくりだす喜びを味わい主体的に美術作品や自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>(行動観察・対話・記述)</p>
様子	質感	色合い															
筆あと	ぬり方																
美術作品A	・細筆の先で描いている ・月や星の明かり(重ね方、周りの色づかい) ・左下から右上へ流れているよう、空、風、渦	・アクセント															
美術作品B	・夕日なのに太陽を描かずに表現している →見る人が想像できる 色の重ね方 ・畑と夕日 ・水平線																
美術作品C	・静かな風景 ・水を多く含んで境目をぼんやり表現 ・朝の肌寒さ	・奥行きが感じられる															
<p>整理 10 分</p> <p>6 3つの作品から1つを選び、情景描写の簡単な考察をする。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○鑑賞して読み取った作者の思いや表現の特徴を、国語の物語文における情景描写を生かして伝え合う。</p> <p>○鑑賞の視点だけではなく、児童のイメージの広がりや心の動きについても称賛する。</p> <p>○同じ空でも多様な表現があることに気付くことができるようにする。</p> <p>○友人との見方や感じ方の共通点や違いに気付き、作者の思いや考えに関心をもてるようにする。</p>	<p>編 P111 指導計画の作成の留意事項(2)(3)</p>															

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態=「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

(1) 在籍児童数 25 名

(2) 場の設定

- ・一人一人の I C T 端末で、鑑賞する美術作品を拡大したり書き込んだりしながら見られるようにする。個に応じて対応できるように、手書き用に印刷したワークシートと美術作品のカードも準備しておく。
- ・ I C T 端末と電子黒板を用いて、データのやり取りができる環境で行う。発表の際には電子黒板に投影し、クラス全体で共有する。

(3) 第 2 時以降の授業について（〔共通事項〕に係る内容ア____、イ_____）

【第 2・3・4 時】表現をまねたり、自分なりの表現方法で筆の感じを試したりしながら、空を絵に表す。

〈児童の姿〉児童は、線描や点描、にじみやぼかしなど、既習の表現方法をどのように生かすかを考え、混色だけでなく、色の重なりやグラデーションを楽しみながら表現していた。また、美術作品から得たイメージを自分の中で膨らませるために、事前に雲の流れや夕日の沈む様子を観察する児童もいた。写生のように自分の気に入った空を表現したり、色彩や光の印象を大胆に表現したりと表し方の幅を広げて取り組んでいた。



〈児童作品の空の一部〉

【第 5 時】学級内で「筆あと美術館」を開き、学芸員を演じながら友達の作品を紹介する。

〈児童の姿〉1 グループ 3～4 人で活動した。

まず、グループ内で作品を紹介し合い、「筆あと美術館」の準備として、リアルタイム学習支援アプリ（MetaMoji）のワークシートに①作品の写真、②作者のことば、③友達のコメント（アプリ内のふせん）を共同編集でそれぞれ入力し合った。ふせんは、内容によって 3 色を使い分け（筆の感じ→ピンク、色→黄色、その他のよさ→水色）、鑑賞の視点を意識できるようにした。



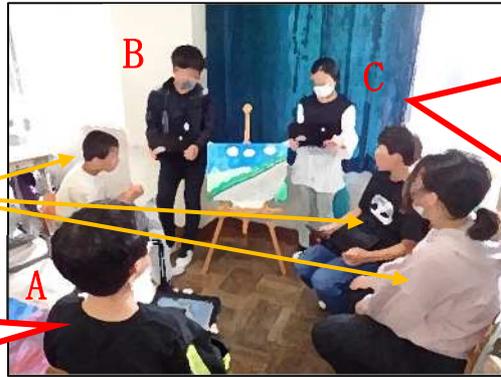
〈共同編集集中の児童の様子〉



〈ふせんを貼り終えた児童のワークシート〉

次に、2グループずつ合同で「筆あと美術館」を開いた。活動方法は、児童Bと児童Cが児童Aの作品を紹介し、作者である児童Aと相手グループの児童が聞き手となるというものである。（児童Bと児童Cの作品についても同様に作者以外の2人から紹介する。その後、相手グループも同様に作品を紹介していく。）作者も聞き手となることで、自分の作品がどのように鑑賞され、価値付けられたのかを実感したり、自分の見方と比較して新たな価値をつくり出したりすることを目的とした。活動を進めていくうちに、聞き手から感想や質問が自然と出ていた。

相手グループの児童：
イーゼルに乗った実際の
作品を見ながら紹介
を聞いて鑑賞してい
る。



児童B・C:児童Aの作品
について、作者の思いや
自分たちが読み取った
作品のよさを紹介して
いる。ワークシートに書
き溜めたふせんを活用
して紹介している。

児童A:自分の作品の紹
介を聞いている。

〈「筆あと美術館」の様子〉



〈全体で共有する場面の様子〉

最後に、全体で共有する場面では、席の遠い児童にも発表者の意図が伝わるように、電子黒板に作品を映した。児童のICT端末は、全てのグループの編集ページを閲覧することができる設定にし、自分が気になった作品があれば自由に見ることができる。振り返りの場面では、「友達が色々な見方でほめてくれてうれしかった。」「同じ作品を鑑賞していたのに、自分と友達の感じ方が違った。なるほど、と思った。」「新しいよさを見つけてもらえて驚いた。」等の感想が出ていた。